

個人投資家向け会社説明会

ダイトロン株式会社

証券コード: 7609 東証1部

目次

- 会社概要及び事業内容
- 第9次中期経営計画について
- 業績ハイライト
- 株式情報

会社概要及び事業内容

商	号
設	立
本	社
代	表
資	者
本	金
従	業
業	員
数	
売	上
高	
事	業
業	内
容	
連	結
子	会
社	社
株	式
証	券
コ	ー
ト	・
認	証

ダイトロン株式会社

1952(昭和27)年6月24日

大阪府大阪市淀川区宮原4-6-11

代表取締役社長 前 績行

22億70万8,560円

連結:823名

連結:616億21百万円(2019年12月期)

**電子機器及び部品、各種製造装置等の製造・販売
上記の輸出入業務**

9社

東証1部上場

7609

ISO14001 ISO9001



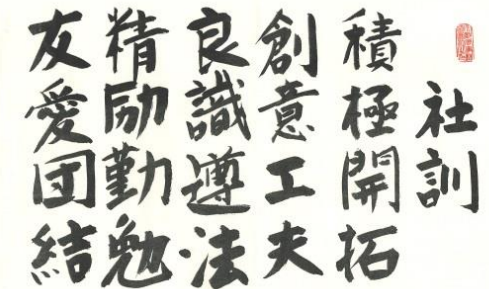
本社(大阪府大阪市)

【創業の精神】

「きびしい仕事 ゆたかな生活」

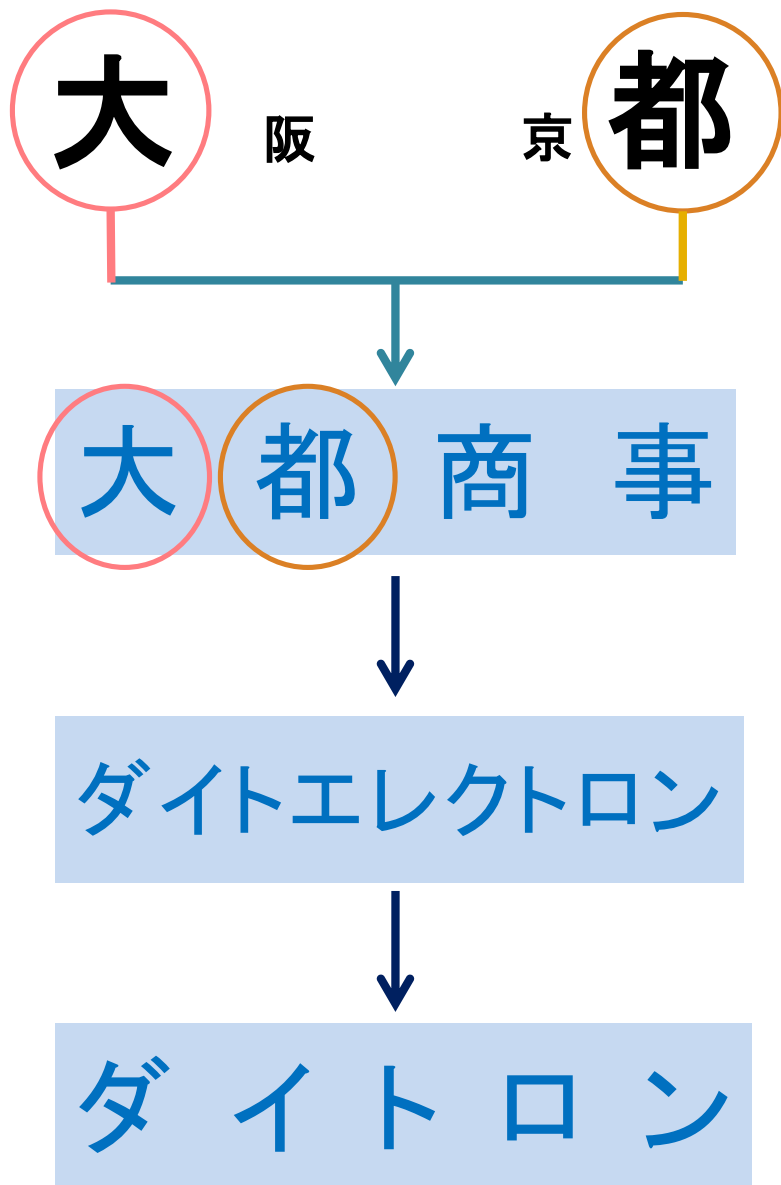
【行動規範】

積極開拓 創意工夫 良識遵法
精励勤勉 友愛団結



【経営理念】

- 我が社は、社員の自己実現を尊重し完全燃焼を期するため、真に働き甲斐のある快適な職場創りを目指します。
- 我が社は、株主・顧客・仕入先に対して満足の提供に努力致します。
- 我が社は、絶えずグローバルな視野に立って、技術革新と高付加価値の創造に挑戦していきます。
- 我が社は、絶えず感謝の念をもって社会に貢献していきます。



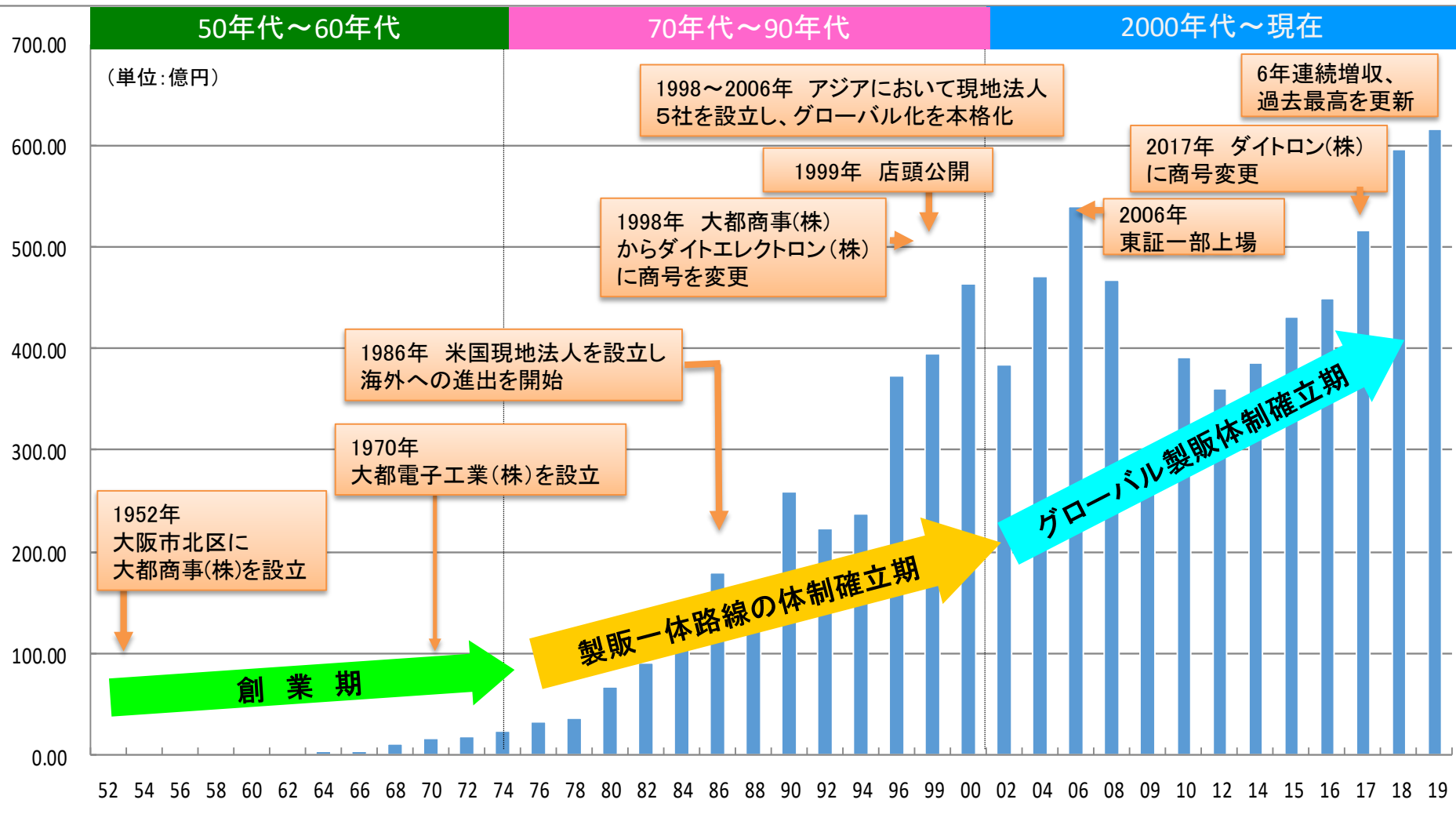
1952年 高本善四郎氏(京都府出身)が、大阪市北区に資本金30万円にて大都商事 株式会社を設立。

東京通信工業(株)(現ソニー(株))の特約店となり、当時珍しかったテープレコーダの販売に注力。

1998年 大都商事(株)からダイトエレクトロン(株)に商号を変更

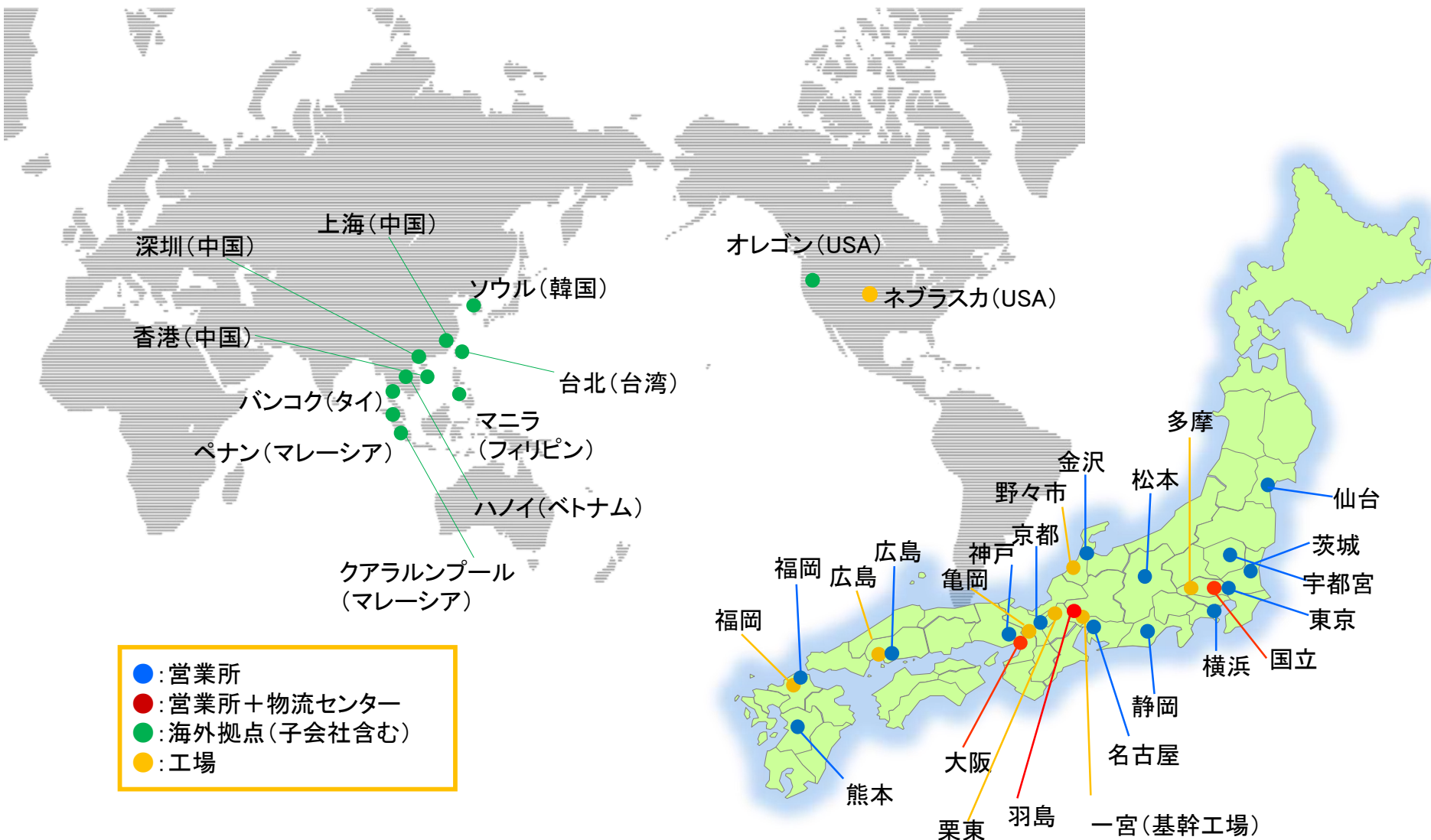
2017年 国内子会社のダイトデンソー(株)、ダイトロンテクノロジー(株)と合併し、ダイترون(株)に商号を変更

(売上高実績)

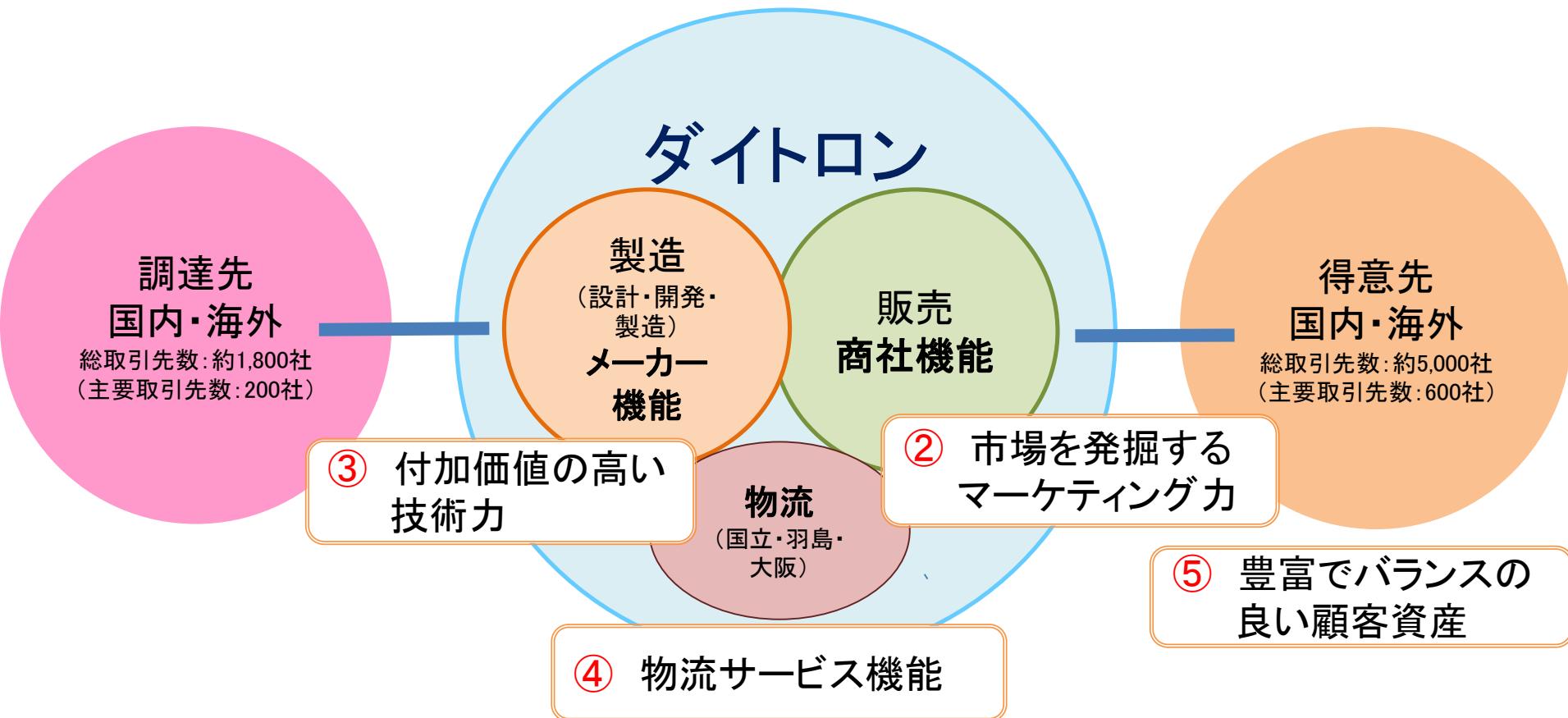


注) 1998年より連結決算を開始。グラフの売上高は1998年以降は連結ベース。それ以前は単体ベース。

国内24拠点(内7工場)・海外12拠点(内1工場)



- ① 商社機能のマーケティング力 + メーカー機能の技術力(設計・開発・製造)
= **製販融合**の強みを活かし、お客様の幅広いニーズに対応



組織体制 「2本部2カンパニー制」

代表取締役社長

※カンパニー名の意味は、下記を表しております。
「M&S」・・・マーケティング&セールス
「D&P」・・・ディベロップメント&プロダクション
※従業員数は2020年6月末時点の人数です。

海外事業本部

【事業内容】

海外市場における電子機器・部品、各種製造装置等の販売及び輸出入

海外グループ会社の管理

【従業員数】

58名（パートアルバイト含む）

参考【海外拠点人数】

156名（パートアルバイト含む）

ダイترون INC.

ダイترون(マレーシア)SDN.BHD.

大都電子(香港)有限公司

大途電子(上海)有限公司

大途電子(深圳)有限公司

ダイترون(韓国)CO.,LTD.

ダイترون(タイ)CO.,LTD.

管理本部

M&Sカンパニー
(商社)

【事業内容】

電子機器及び部品、各種製造装置等の仕入・販売

【従業員数】

452名（パートアルバイト含む）

D&Pカンパニー
(製造)

<部品事業>

【事業内容】

電子機器・部品等の製造

【事業領域】

ワイヤーハーネス、耐水圧コネクタ、スイッチング電源、UPS(無停電電源装置)

【従業員数】

274名（パートアルバイト含む）

<装置事業>

【事業内容】

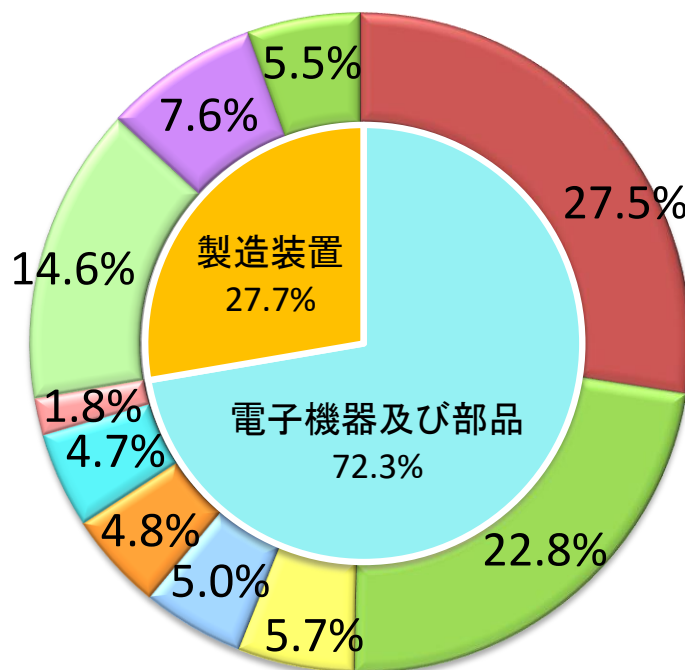
各種製造装置等の製造

【事業領域】

半導体製造装置、光電子関連

【従業員数】

114名（パートアルバイト含む）



- 電子部品 & アセンブリ商品
- エンベデッドシステム
- 情報システム
- 電子機器及び部品のその他
- 電子部品製造装置

- 画像関連機器・部品
- 半導体
- 電源機器(グリーン・ファシリティー含む)
- 半導体・FPD製造装置
- 製造装置その他

電子部品 & アセンブリ商品



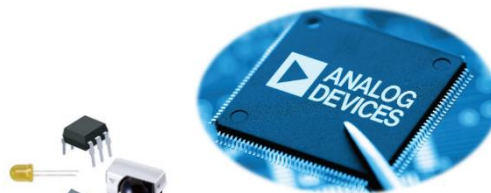
各種コネクタ・ハーネス



ハーメチックコネクタ

オリジナル製品

半導体



アナログ・高周波IC

LED・光学素子

エンベデッドシステム



産業用カスタムPC



産業装置用組込PC

電源機器



無停電電源装置



超低ノイズスイッチング電源

オリジナル製品

画像関連機器・部品



照明



カメラ



レンズ



非接触ICカードシステム



ビデオ会議システム

情報システム

半導体・FPD製造装置



リフトオフ装置
オリジナル製品



有機EL発光検査装置
オリジナル製品



ウェーハ面取機
オリジナル製品



ウェーハ片面研磨機

電子部品製造装置



スクライブ・ブレイク装置
オリジナル製品



LDチップテスター
オリジナル製品



LD/LEDエージング装置
オリジナル製品



電極シート検査装置



スイッチング電源



耐水圧コネクタ
ハーメチックコネクタ



産業用ハーネス

パワー
マネジメント
技術

ガラス
ハーメチック
技術

画像
技術

コア
テクノロジー

アセンブリ
技術

結線
技術

- ・栗東工場
- ・一宮工場(中部)
- ・多摩工場



ウエハー面取機

- ・亀岡工場
- ・一宮工場(中部)
- ・多摩工場



LDチップテスター



スクライブ・ブレイク装置

主な供給製品

センサー

半導体

無停電電源装置

通信デバイス

認証機器

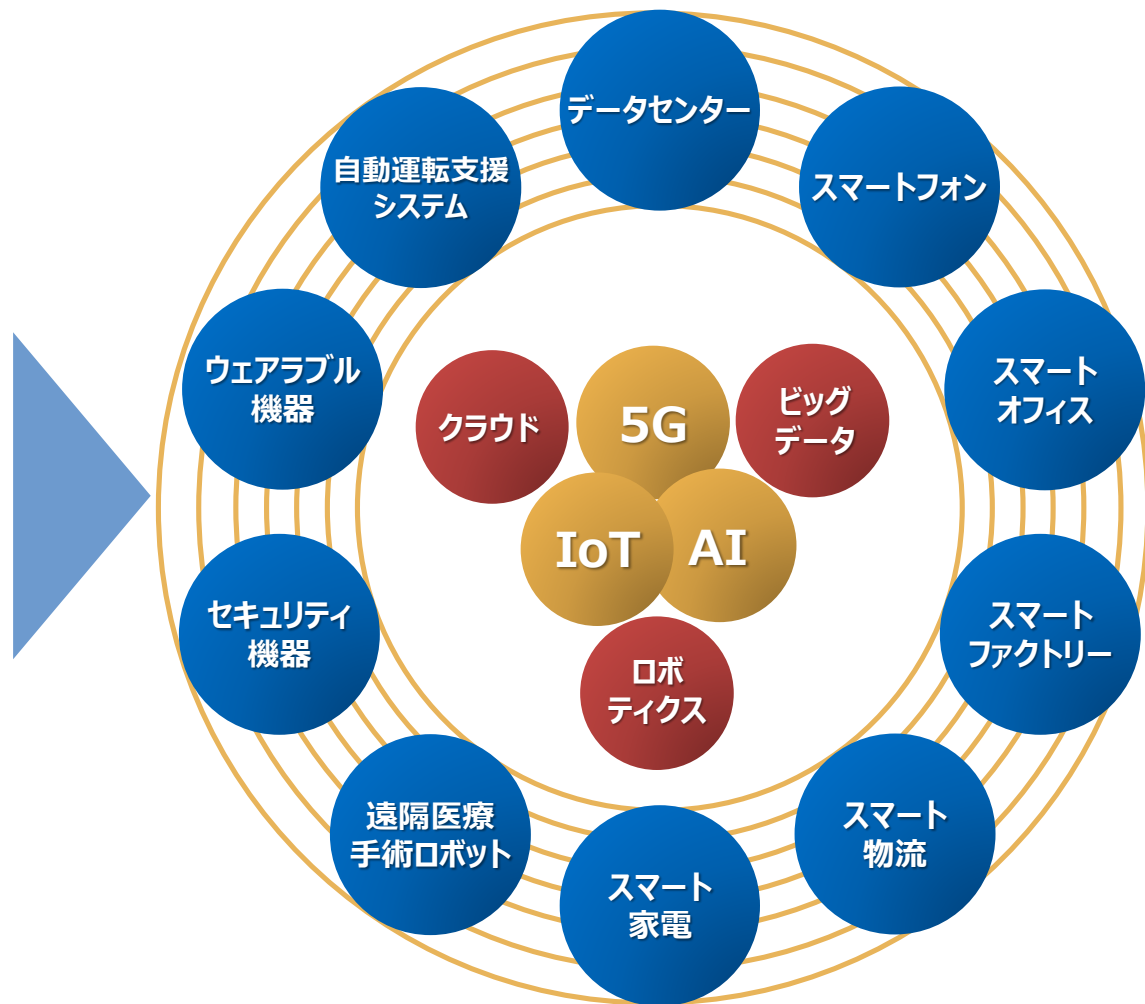
電源機器

産業用PC

画像関連機器

半導体製造装置

電子部品製造装置



第9次中期経営計画（9M）について

1 新グループ・ステートメント

Creator for the ***NEXT***

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値をクリエイトする決意の表明

対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

N : Network

E : Engineering

X : (Synergy)

T : Trading

2 目指す姿

●製販融合の他に類を見ないユニークな企業

→顧客から見た場合「頼もしく」、仕入先から見た場合「安心感」のある

→商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った

●業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業

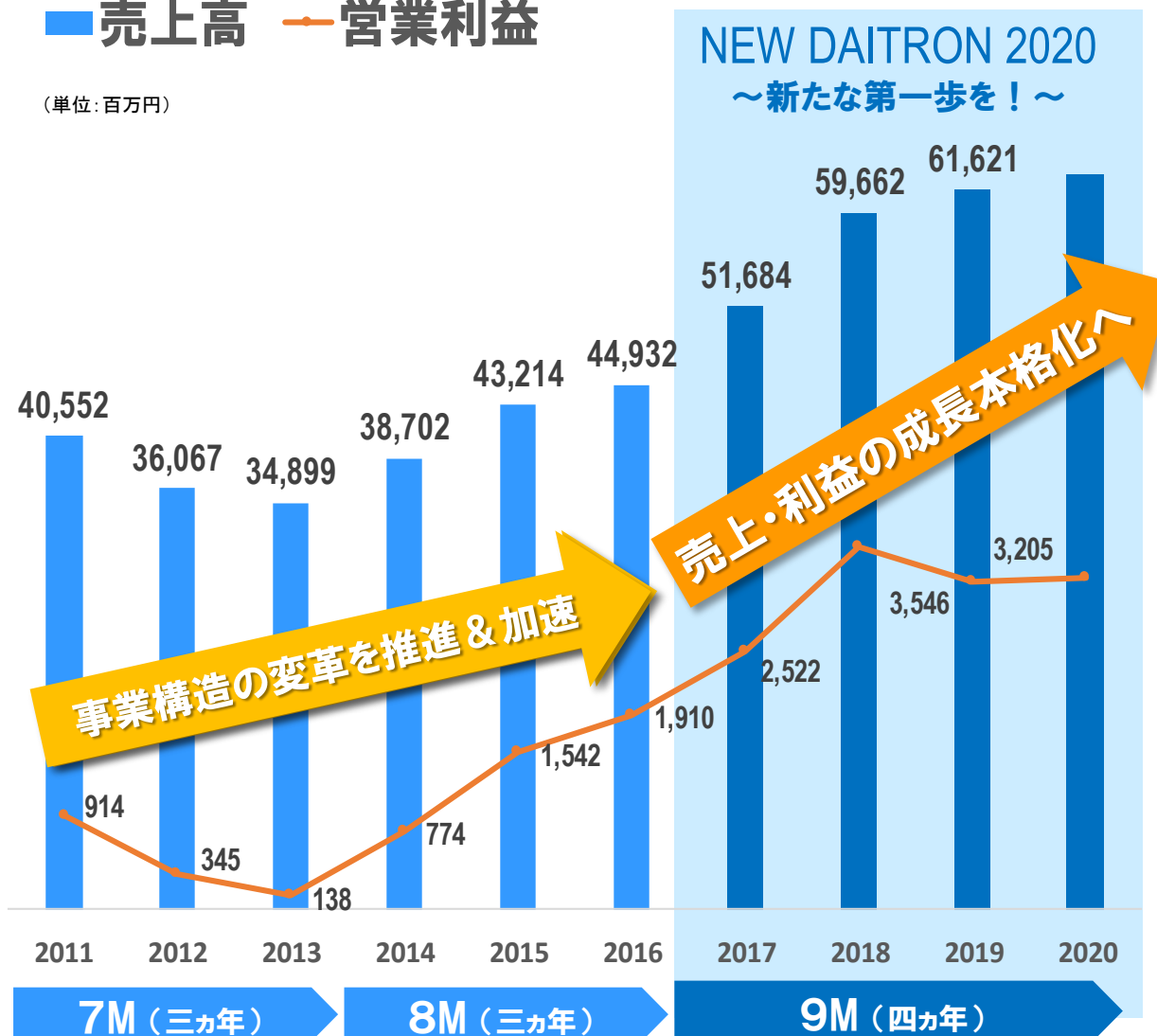
●社員にとって働き甲斐があり、誇りに思える企業

●一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織

1) 数値目標(連結)

■売上高 ■営業利益

(単位:百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益の持続的な
成長により
過去最高実績を越えて
更に先の成長を目指す

【目標とする経営指標】

自己資本比率

50%

(2019年:41%)

ROA

4%以上

(2019年:4.9%)

ROE

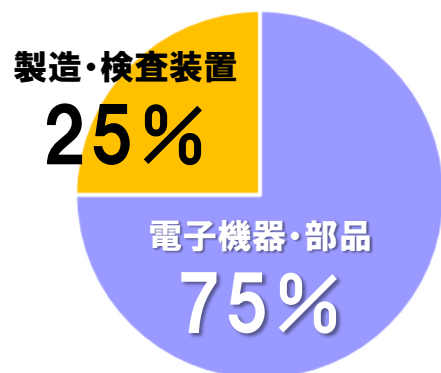
8%以上

(2019年:12.2%)

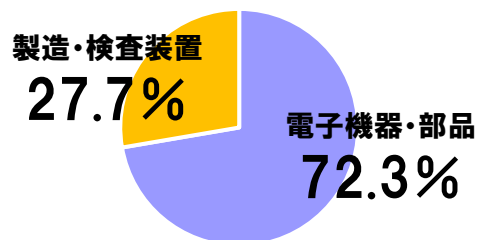
部門別構成比

(売上高ベース)

【2020年 目標】



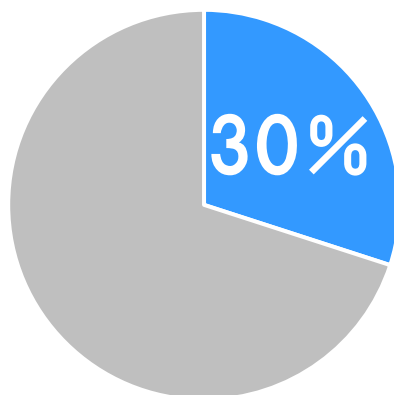
【2020年2Q 実績】



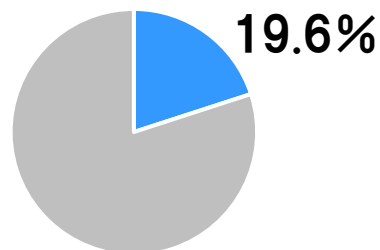
オリジナル製品比率

(売上高ベース)

【2020年 目標】



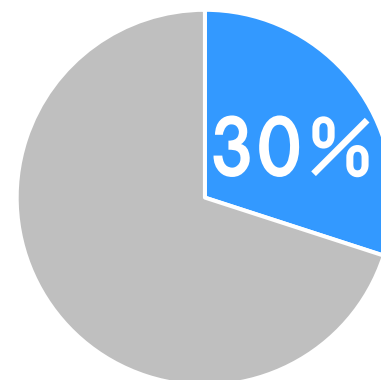
【2020年2Q 実績】



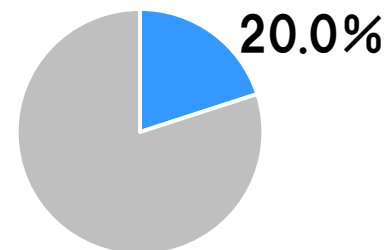
海外事業比率

(売上高ベース)

【2020年 目標】



【2020年2Q 実績】



2020年(9M最終年度)における各基本戦略のポイント①

1. 成長性重視の事業再構築を推進

- (1) オートモーティブ → ADAS、EV関連での事業拡大
- (2) メディカル → 製薬業界、消耗品関連の事業拡大
- (3) ロボティクス → 多様化するROB(サービス、介護、農業、他)への販促

2. オリジナル製品開発の強化

- (1) 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ → 付加価値アップ
- (2) 新製品開発の強化(新分野) → D&P 製品開発部の充実した活動
- (3) 仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

3. 海外ビジネス展開の強化

- (1) 部品ビジネスの拡大
- (2) 地域独自の事業を開発
- (3) 海外拠点間のビジネス連携の強化

2020年(9M最終年度)における各基本戦略のポイント②

4. マーケティング力 & 営業力の向上

- (1) 競争力のある仕入先(商品)開拓により利益率の改善を目指す
- (2) 顧客製品の販売によりリレーションを強化
- (3) 複合的(システム)販売により付加価値の向上を図る

5. 生産部門の統合強化

- (1) 機器工場・特機工場の収益力アップ
- (2) グループ会社の生産機能の強化(ダイトテックと鷹和産業の合併)
- (3) 生産性向上により付加価値を高める(利益率の改善)

6. 組織力 & 人材力の強化

- (1) ジョブローテーション、キャリアパス制度により人材育成や活性化を図る
- (2) リスクマネジメントの強化
- (3) 新人事制度の運営 → 65歳定年、評価制度の充実、教育の高度化

成長が有望視される
市場



自動車



医療



インフラ



ロボット関連技術

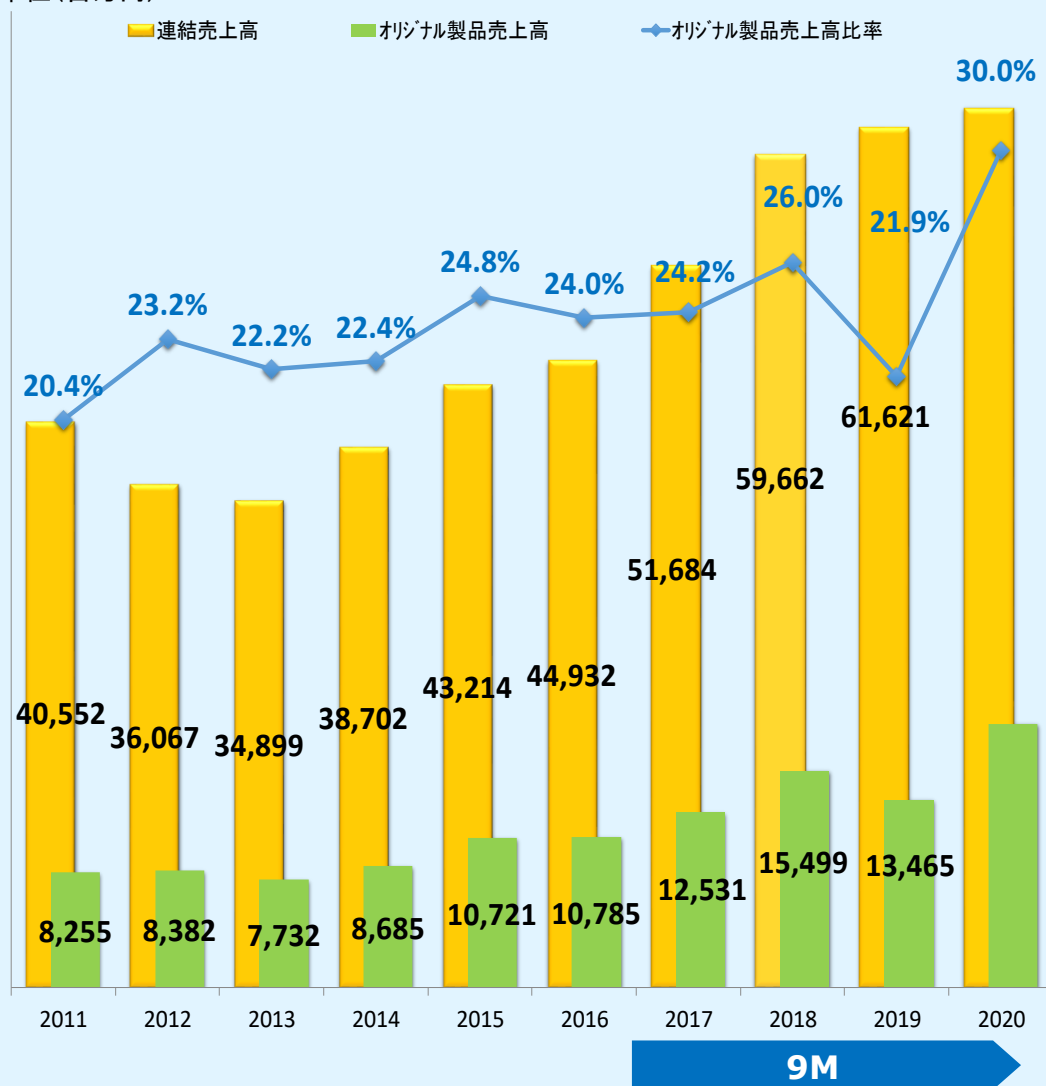


航空・宇宙

事業
再構築
を推進

安定的な
成長基盤

単位(百万円)



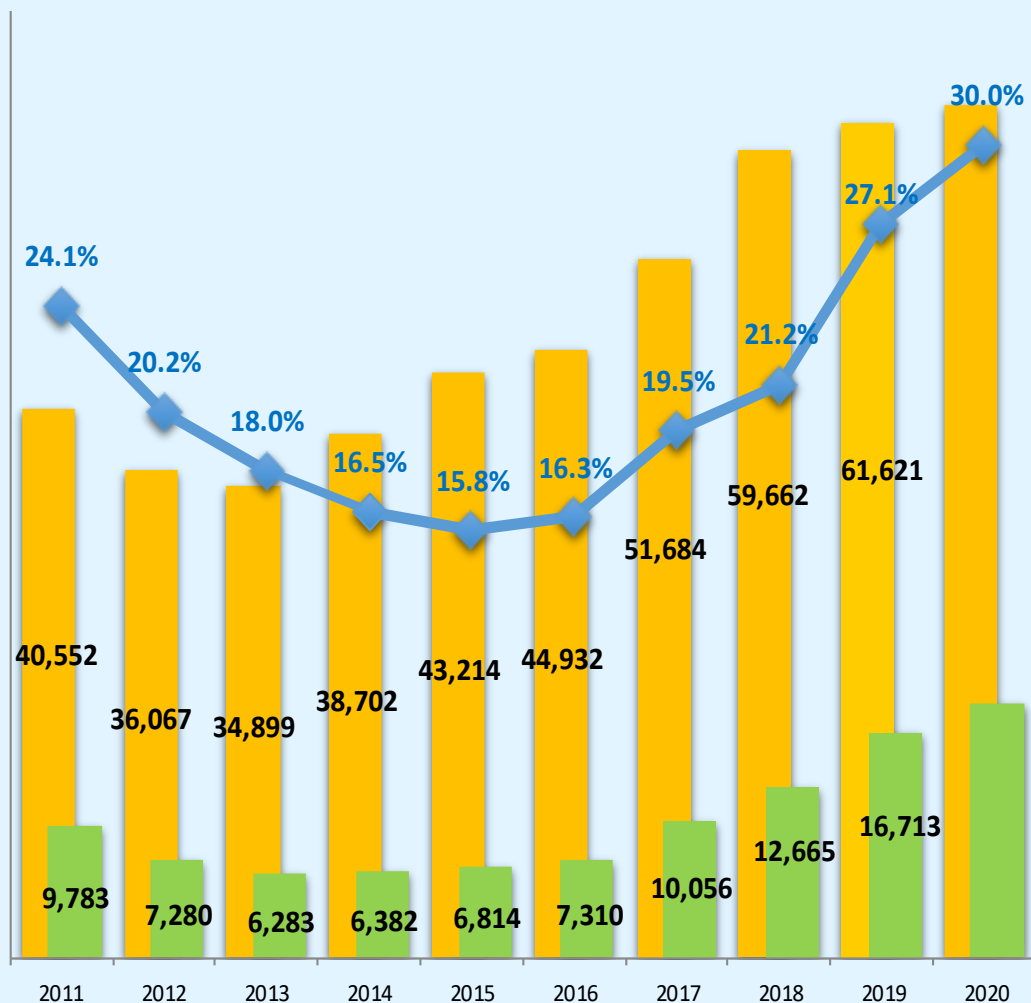
オリジナル製品比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- ・ 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- ・ 新製品開発の強化（新分野）
- ・ 仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

単位(百万円)

■ 連結売上高 ■ 海外売上高 — 海外売上高比率



海外売上高比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- ・ ローカル企業との取引拡大
- ・ 電子部品ビジネスの拡大
- ・ アウトーアウトビジネスの拡大
- ・ 地域独自のビジネスを推進
- ・ ネットワークの拡充

9M

戦略 ポイント 1

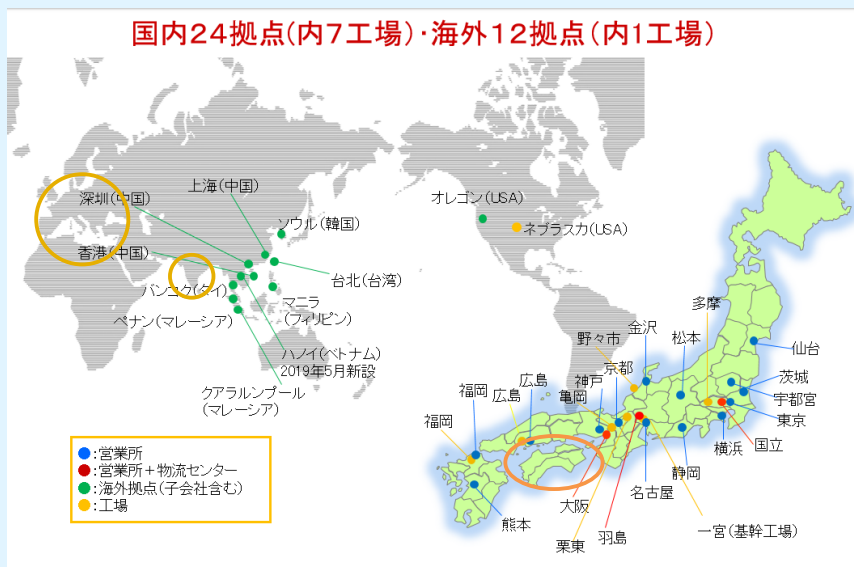
国内外における 販売ネットワーク拡充

【国内】 ● 東北地方 仙台(2019年1月設立)

● 四国地方

【海外】 ● ベトナム ハノイ(2019年5月設立)

● インド ● 欧州 など



○ は調査中

戦略 ポイント 2

既存市場における プレゼンス向上

■ 従来

ダイトロン

限られた特定の製商品
にとどまった取引

お客様
(販売先)

■ 今後の取り組み

ダイトロン

複合的な取引関係の構築へ

電子機器・部品から製造装置まで
総合的な取引へ

競争力のある仕入先開拓
(販売先の仕入先化)

Daitronブランド力強化に向けた
製品開発の加速

パートナー
企業

販売先
として

仕入先
として

開発パートナー
として



中部工場（愛知県一宮市） ダイترونグループの 基幹工場として新設



製造と開発の 中核拠点へ

- ・生産性向上による収益力アップ
⇒生産体制（中部工場）の集約・効率化
⇒生産管理システムの導入（管理面）
- ・グループ会社の生産機能の強化
⇒ダイトテックと鷹和産業の合併

中部第一工場
2016年11月稼働

中部第二工場
2019年8月本格稼働

- 【第一工場】電子機器・部品関連生産体制
⇒ 2016年11月稼働
- 【第二工場】装置関連生産体制
⇒ 2019年8月本格稼働



製造装置の生産現場（中部第二工場）

業績ハイライト

■ 第2四半期累計

売上高 **28,630百万円**

(前年同期比 97.2%)

■ 営業利益

1,257百万円

(前年同期比 101.4%)

■ 経常利益

1,266百万円

(前年同期比 102.1%)

■ 四半期純利益

807百万円

(前年同期比 100.2%)

四半期業績の推移グラフ

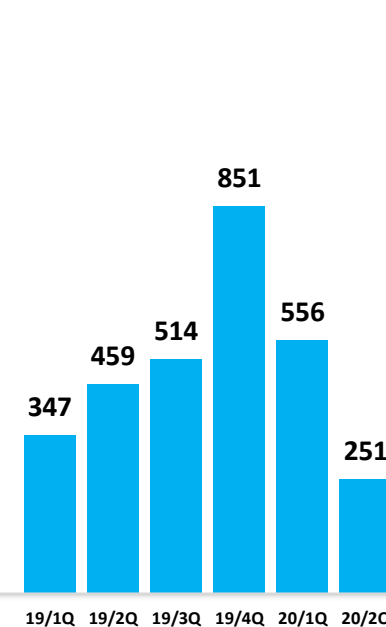
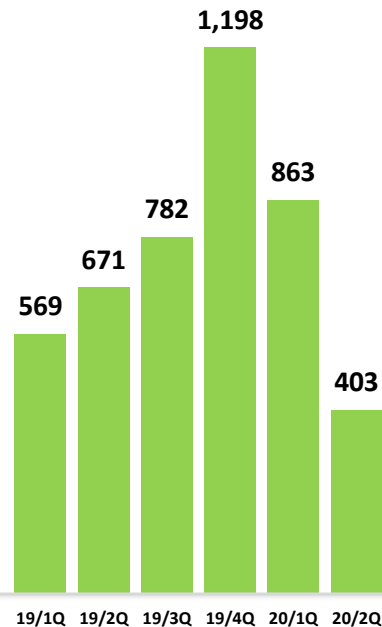
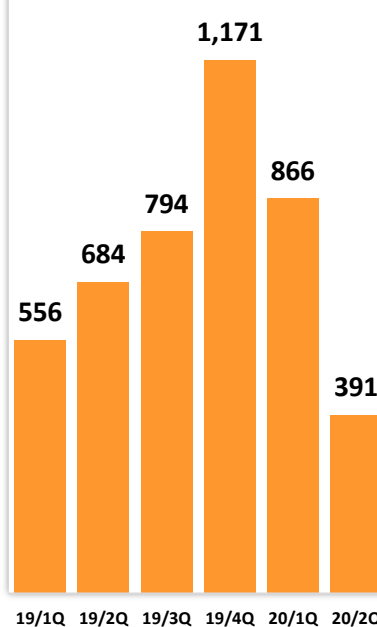
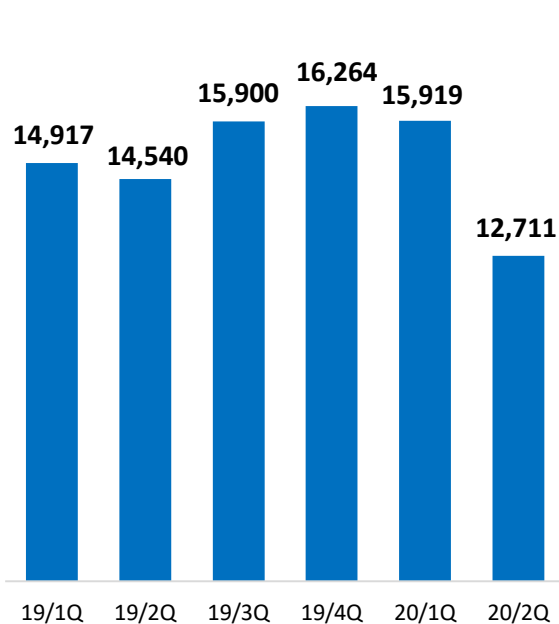
売上高

営業利益

経常利益

四半期純利益

(単位: 百万円)

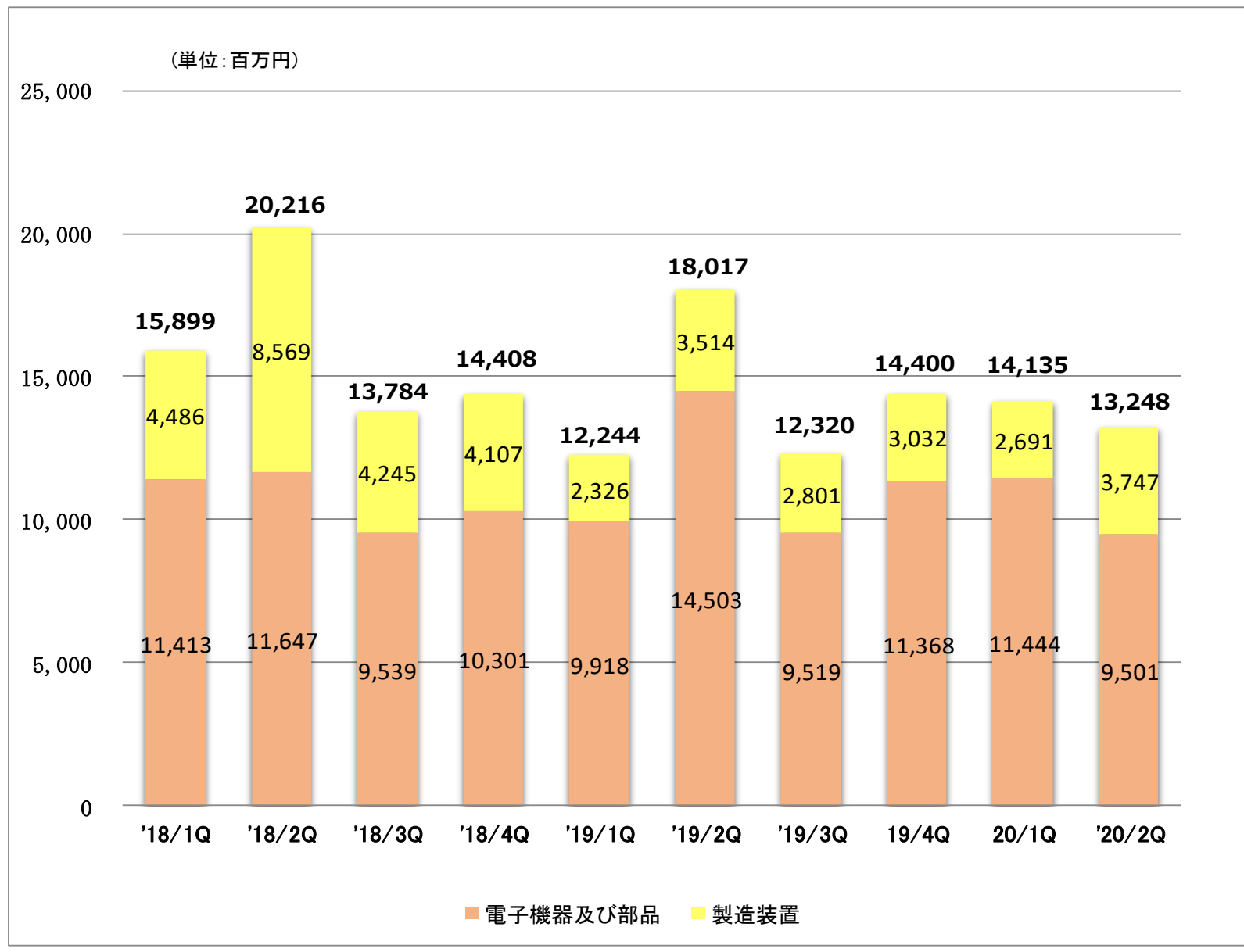


事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率
電子機器・部品	電子部品 & アセンブリ商品	27.5% (前年同期 24.3%)	23.9% (前年同期 24.3%)	19.6% (前年同期 20.4%)	北米 1.4% (前年同期 3.0%)
	半導体	5.0% (前年同期 5.5%)	17.7% (前年同期 19.0%)		
	エンベデッドシステム	5.7% (前年同期 5.7%)	14.5% (前年同期 13.6%)		
	電源機器(グリーン・ファシリティー含む)	4.7% (前年同期 4.3%)	26.8% (前年同期 26.3%)		
	画像関連機器・部品	22.8% (前年同期 20.2%)	15.0% (前年同期 15.1%)		欧州 0.4% (前年同期 1.3%)
	情報システム	4.8% (前年同期 4.9%)	26.2% (前年同期 23.6%)		
	電子機器及び部品のその他	1.8% (前年同期 1.6%)	15.3% (前年同期 4.0%)		
製造装置	半導体・FPD製造装置	14.6% (前年同期 19.9%)	19.1% (前年同期 16.7%)		アジア 18.2% (前年同期 22.9%)
	電子部品製造装置	7.6% (前年同期 9.0%)	26.8% (前年同期 27.9%)		
	製造装置その他	5.5% (前年同期 4.6%)	13.7% (前年同期 18.0%)		
全 体		100.0%	20.1% (前年同期 19.8%)	19.6% (前年同期 20.4%)	20.0% (前年同期 27.1%)

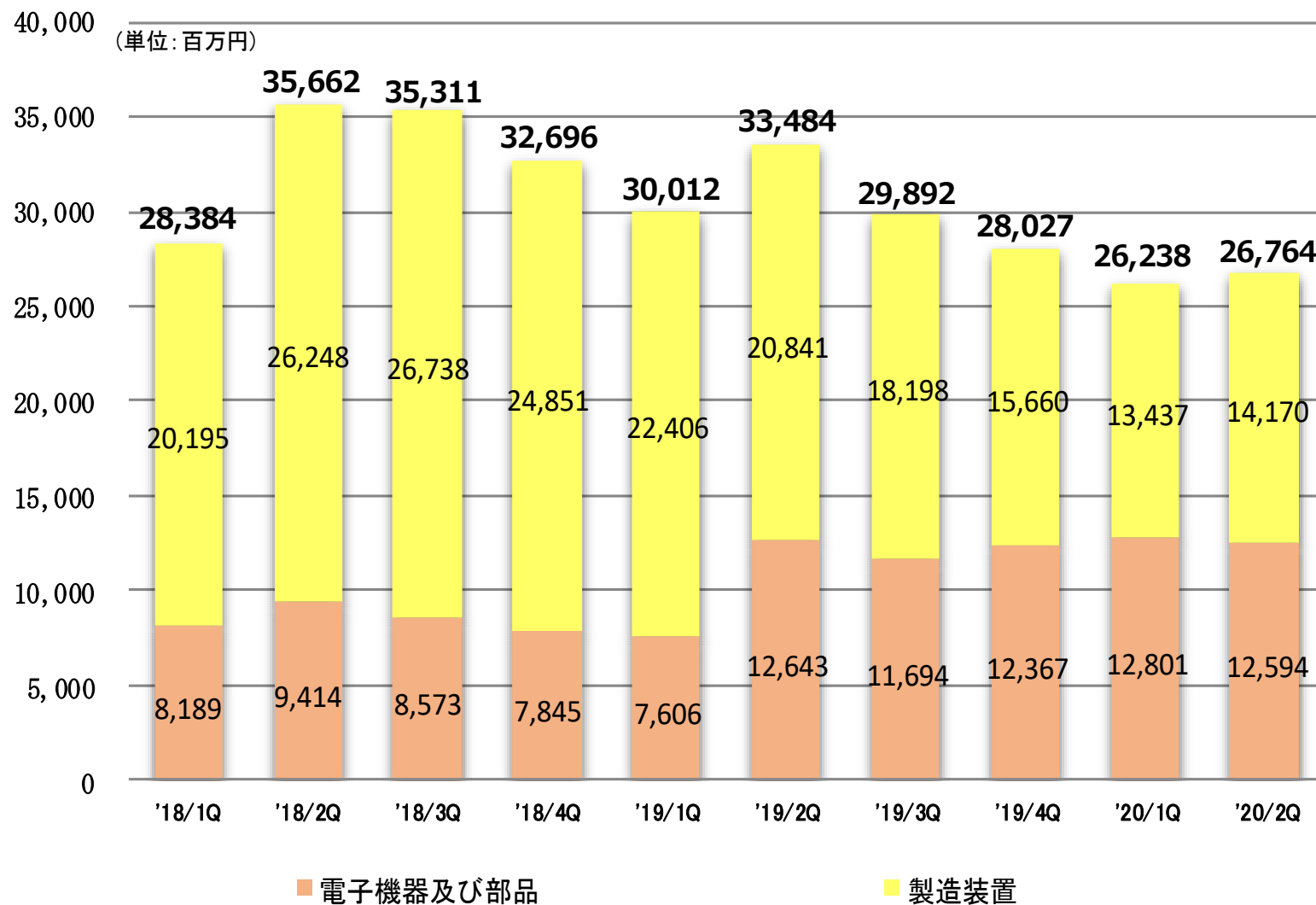
は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

(百万円)		2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減額
国	内	21,477	22,910	1,433
海	外	7,980 (27.1%)	5,720 (20.0%)	△2,260 (△7.1pt)
	北 米	869	410	△459
	欧 州	379	111	△268
	ア ジ ア	6,731	5,198	△1,533
合	計	29,457	28,630	△827

	2019年12月期	2020年12月期 第2四半期	増減額
(百万円)			
総 資 産	45,757	45,852	95
負 債 合 計	26,992	26,862	△130
自 己 資 本	18,762	18,986	224
純 資 産	18,765	18,989	224
自己資本比率	41.0%	41.4%	0.4pt
一株当たり純資産 (円 銭)	1,691.87	1,711.69	19.82



四半期別 受注残高推移 (商品セグメント別)



※2021年度以降納期の受注残が、電子機器及び部品には約3,829百万円
製造装置には、約4,860百万円含まれております。

2020年12月期の通期連結業績予想及び配当予想につきましては、現在、世界各地で新型コロナウイルスの感染が拡大している影響から、商品、製品の納入時期や立ち上げ時期を予測することが困難な状況となっております。

このような状況から、現時点でその影響額を算定することが困難であるため、通期業績予想及び配当予想は**未定**としております。

なお、通期業績予想及び配当予想につきましては、算定が可能となった時点で改めて算定し、公表いたします。

- 当社グループにおける対応
 - 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対応についてガイドラインを設定
- 感染防止に対する当社の取組み
 - 時短勤務、時差出勤、在宅勤務の導入
 - 不急の国内出張の先送り、海外出張の延期
 - イベント主催、接待飲食の自粛
- 当社グループが属しているエレクトロニクス業界について
 - 5G、IoT、自動化に関連する電子部品や半導体、生産設備の需要は堅調に推移
 - 世界各地で感染が拡大している影響から、生産活動は先行き不透明な状態

株式情報

	第2四半期末 (中間)	期 末	年間配当 (中間+期末)	当初予想	配当性向
2016年 12月期	—	30円	30円	20円	27.4%
2017年 12月期	15円	30円	45円	30円	26.6%
2018年 12月期	20円	35円	55円	50円	26.8%
2019年 12月期	25円	35円	60円	60円	30.6%
2020年 12月期 予想	20円	未定	未定		未定

※ 2017年12月期より中間配当を実施

※ 2020年12月期の配当予想につきましては未定としております。

(2020年6月30日現在)

上 場 市 場
証 券 コ ー ド
単 元 株 数
発 行 済
株 式 総 数
株 主 数

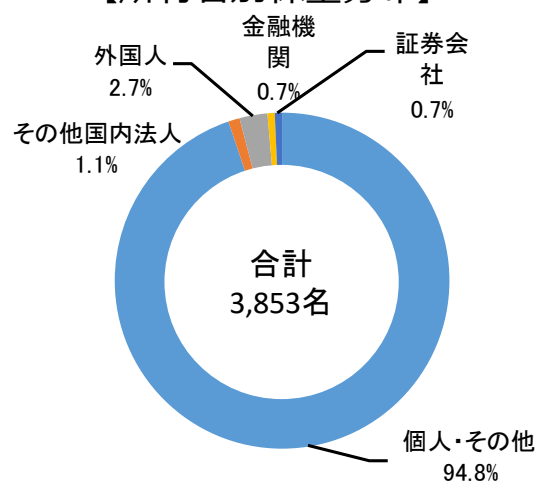
東京証券取引所 1 部
7 6 0 9
1 0 0 株
1 1, 1 5 5, 9 7 9 株
3,853名

□大株主の状況

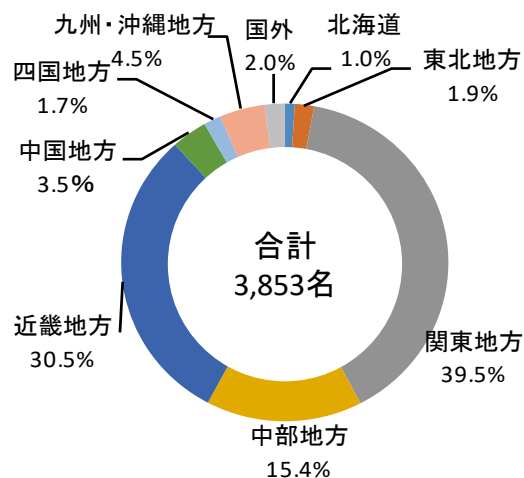
株主名	持株数 (千株)	持株 比率(%)
公益財団法人ダイトロン福祉財団	1,000	9.0
日本トラスティ・サービス信託銀行	996	9.0
大森 有紀子	503	4.5
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	459	4.1
株式会社みずほ銀行	399	3.6
株式会社三菱UFJ銀行	363	3.3
ダイトロン従業員持株会	344	3.1
ダイトロン取引先持株会	194	1.7
日本生命保険相互会社	181	1.6
BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV-DSBI JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE	177	1.6

【株主構成】

【所有者別株主分布】



【地域別株主分布】



この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。

また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをお含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営管理部 IR担当

TEL: 06-6399-5952

FAX : 06-6399-5962

e-mail : info.ir@daitron.co.jp

Creator for the *NEXT*